

福岡県移住者子弟留学生

第 3 回報告書（12 月）

テーマ

「勉強のこと」

ブラジル福岡県人会
太田 砥綿 ジュリア 留理

九州大学大学院 芸術工学府

今年の5月から九州大学大橋キャンパスで勉強が始まりました。芸術工学部の環境設計コースに入ったけど、実は建築の勉強をしています。私の研究のテーマは「自然災害による被災者のための仮設住宅」です。ブラジルの大学の卒業論文でもこのテーマで研究していたので、このテーマに興味を持っていました。仮設住宅の研究を続けたい理由は、日本にはこの分野の経験が多いからです。

日本は自然災害が起こりやすい地域にあるため、昔からこのような事態への対応を余儀なくされてきました。緊急事態への迅速な対応、被災者への良質な住宅の提供は、日本がこのテーマで研究する手本となる国であることを表しています。

研究の出発点として、私は日本で発生した主な自然災害について調べ始めました。例えば、1995年の神戸の震災、2011年の福島、2016年と2020年の熊本、2017年の朝倉の自然災害などです。各地で何が起きたのか、どのような災害だったのかを理解した上で、行政がどれだけ迅速に仮設住宅を提供したか、それぞれの避難所がどのように作られたのかを知ることが重要でした。

九州大学の学生として、「KASEI」というグループのイベントに参加する機会がありました。「KASEI」は、仮設住宅に住む人々の生活の質を向上させるための活動やプロジェクトを行う九州の建築学生で構成されています。私が参加したイベントでは、熊本の山江村の住民のために竹灯籠を作りました。灯籠の制作だけでなく、仮設住宅を間近で見ることができ、とても興味深い体験でした。

研究発表のためのセミナーに参加するだけでなく、教授の別の2つのプロジェクトに参加することができました。1つ目は、私と研究室の仲間で大野城市役所の模型を組み立てるというものがありました。2ヶ月間、毎週ミーティングを行い、モデルのパーツをカットし、組み立ても行いました。4×2.5mという大きなサイズなので、カットや構造、組み立てをどうするか、整理するのに長い時間が必要でした。このような大きな模型を組み立てたことはなかったので、とてもやりがいがありました。

先生と一緒に参加した 2 つ目のプロジェクトは、福岡の団地エリアの建て替えのプロジェクトでした。新しい住宅棟のデザインはどうあるべきか、空間の整理はどうあるべきかという会議に参加しました。団地建て替えが決まった後、先生がクライアントとの会議で企画書を発表できるよう、3D モデル作りを手伝いました。

また、「日本のデザイン」とか「造園」という授業にも参加しました。日本の建築やデザインについての知識を身につけましたが、専門用語が多くて、授業内容を日本語で理解するのが少し大変でした。最初はかなり難しかったのですが、時間が経つにつれて、また同級生も手伝ってくれて、理解しやすくなりました。日本語の授業にも参加して、日本での 1 年間の生活でコミュニケーション能力を向上させるためにとっても大切でした。1 学期はオンライン授業でしたが、2 学期からは対面授業になりました。長い間、パソコンの画面を通してしか見ることができなかった先生やクラスメートに、やっと会えたことが嬉しかったです。

在ボリビア福岡県人会

林 直人 ダニエル

九州産業大学 芸術学部

僕は一年間聴講生として九州産業大学で芸術学部の生活環境デザイン学科のプロダクトデザインを専攻しています。なぜプロダクトデザインを選んだかという、ボリビアでは産業工学を勉強しました。そのカリキュラムの中にいくつかプロダクトデザインに関する科目がありまして、とても興味を持ったので、福岡で勉強できるならデザイン系のものを学ぼうと思ったからです。

前期は5つの科目を選びました。僕の担当の佐藤先生が教えている立体構成とモデリング実習の授業、成田先生のデッサン、田先生のCG演習と滝内先生の日本語の授業です。立体構成ではあらゆる素材を利用して立体造形物を制作するのが目的です。入学が少し遅くなって授業はもう進んでいたため、第一課題の「ケント紙立体」と第二課題の「立体積み木」を合体させてケント紙に切り込みを入れながら母国のサンタクルス州の有名な木、トボロッチをモチーフにし、花が咲いている時のイメージを表現している作品をつくりましたが、日本人の目からはラーメンの器が浮かんでくると友達から言われました。



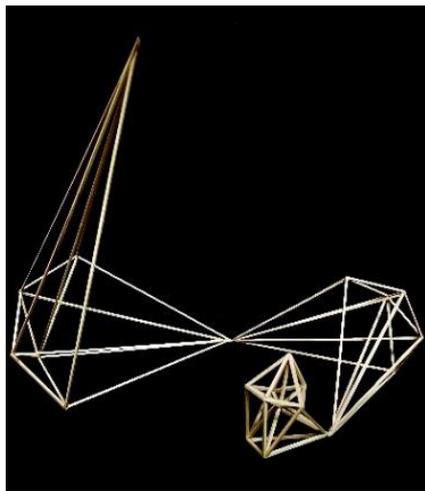
第一、二課題を合体した作品

第三課題は「ビルダーカード」と言って四角形に六つの切り込みを入れてボリビアの国旗と日本の国旗を絵の具で塗りました。ビルダーカードを使って自分がハーフの日系ボリビア人ということを誇りに思いながら出来上がったものです。心の中ではボリビア人でもあって日本人でもある。そのおかげでスペイン語も日本語も話せるし、これからもバイカルチュラルとして生きていくというメッセージがこもったとても大切な作品です。



ビルダーカード

第四課題は「トラス構造」と言って僕の好きなフィボナッチ数列をモチーフにし、三角錐を小さいものからだんだん大きいサイズにして繋げています。数列なので終わりがなく、どこまでも繋がるのが魅力的な作品です。



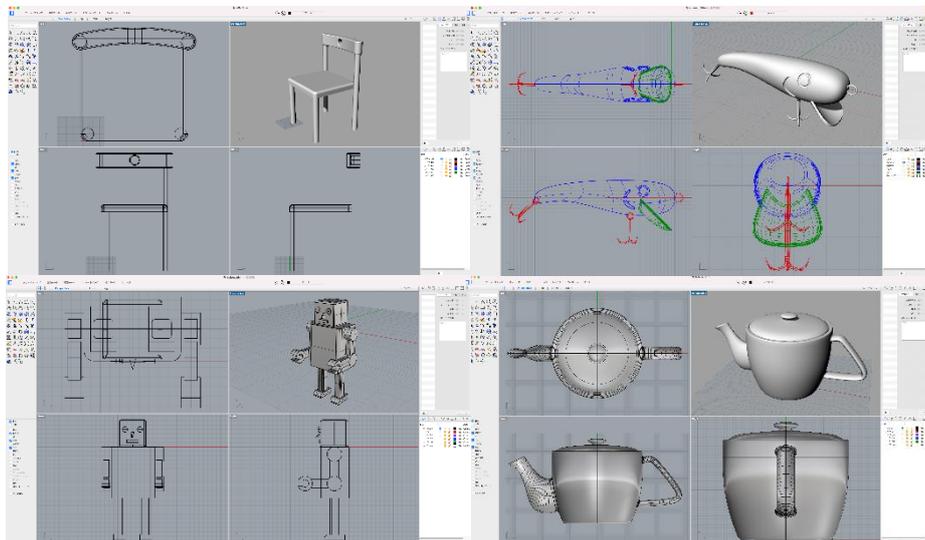
トラス構造

最後の課題は「テーブルウェア」と言って林家の一人一人のことを思いながら家族がみんな揃って食事をしている時にテーブルの真ん中にありそうな醤油とたれの容器です。丸みもあってちゃんと手をつかめるデザインを意識しました。



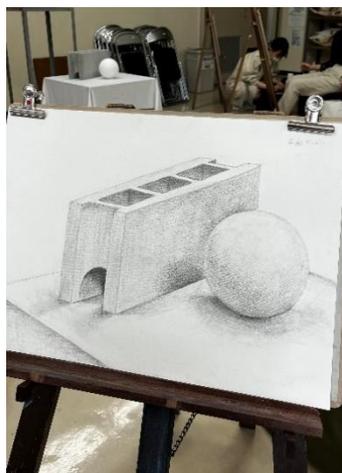
テーブルウェア

モデリング実習の授業では Rhinoceros というデザイナー向けのプログラムを使って色々なものをデザインしました。このプログラムを利用するのは初めてで、ポリビアではエンジニア向けのプログラムを使っていたのでプログラムの扱いに慣れるのが難しかったです。それで、本とか読みながら頭に浮かんでくるものをデザインしました。



1. 椅子 2. ルアー 3. ロボット 4. ポット

デッサンは美術制作表現の中で基礎力となる表現力を再確認と技術力の習得を目指す科目で簡単に言うと鉛筆を使ってパースによるフォルムの把握や明暗法、遠近法による空間表現などの理論を学びます。その中で僕は石膏デッサン、静物デッサンと人物デッサンに挑みました。デッサンの経験は一切なく、友達のすごい腕前に驚きながら自分も頑張りました。

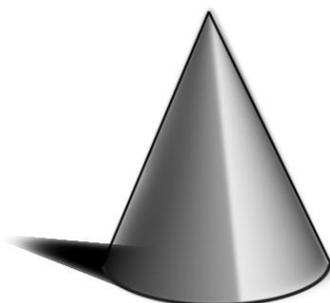


デッサンの授業で描いた作品

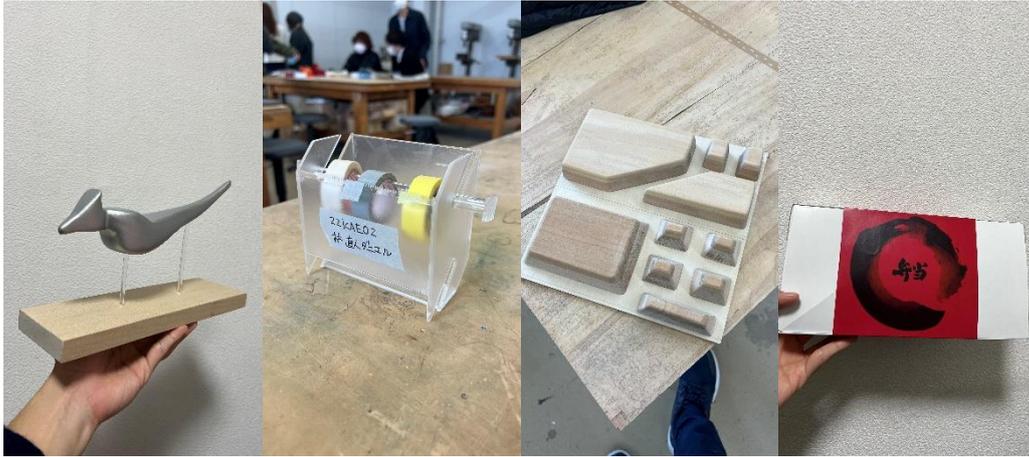
CG 演習の授業では Photoshop の使い方について学びました。デザイナーは Photoshop を全員使えると担当の先生に言われていたし、後期に受けた科目で Photoshop を利用しないといけなかったので基礎から学びました。

後期には、4 つの科目を選びました。迫坪先生のレンダリング実習、担当の佐藤先生の材料加工実習 B、滝内先生の日本語授業と辻先生の材料加工実習 A です。

レンダリング実習では最初にマーカーや修正液を使いながら色んな立方体に影や光を塗る方法を学びました。真っ直ぐな線や丸い円錐の書き方の練習したり、自分が紙に書いたものをスキャンして Photoshop を利用して立体感を出すとか、色々手を動かす作業が多い科目です。



材料加工実習 B ではスピードシェイプと言って発泡剤を使って「遅い動物を早くする」をテーマにしてタツノオトシゴの形を発泡剤にとってジェッソを塗ったりサーフェーサーを塗ったりの繰り返しの後、最後に色を塗ってクリアでピカピカにしながら塗装していきました。テープカッターも作りました。硬いプラスチックの板を工房室に置いてある様々な機械を利用して切って、そのあとサンドペーパーやワックスを使ってツルツルな状態にし、パーツが揃ったらプラスチック専用の接着剤で全部くっつけました。最後の課題はお弁当箱です。パッケージから中のプラスチックの型まで作りました。型は木材を使ってプラスチックを真空成型機で温めて型の形をとるようにしました。パッケージは後の持ち運びや、処分する時にあまりスペースを取らないパッケージをデザインしました。



1. スピードシェイブ
2. テープカッター
3. お弁当の型
4. お弁当のパッケージ

日本語の授業は滝内先生と前期から週一回会って12月に受ける日本語能力試験のために模擬試験など、問題を一緒に解きながら読解と語彙力を高めました。そのお陰で試験は簡単だったし福岡に来たばかりの時と違って自分の日本語力に自信を持つことができました。

材料加工実習Aでは木工房で椅子を作りました。見たことも使ったこともない機械や道具を利用することができてとても嬉しかったです。簡単なデザインの椅子でも実際に作ることは大変だと気づき、出来るだけ丁寧に作ることを意識してカッコいい椅子が完成しました。



1. 組み立てる前の椅子のパーツ
2. 完成した椅子

以上、僕が約一年間大学で学んだことです。

メキシコ福岡県人会

川島 麻耶

九州大学大学院 人間環境学府

R4 県費留学生の川島麻耶です。4 月から始まった福岡での留学生活の終わりが、とうとう近づいてきました。夏が終わり、秋がきて涼しくなり、早くも冬が近づいているので寒くなってきました。今年まだ使っていなかったニットや冬物も使えるようになりましたので、とても嬉しいです。秋といえば、「読書の秋」、「食欲の秋」、「文化の秋」、「芸術の秋」があり、食べることと芸術が好きな私にはとても楽しいものばかりで、個人的には一番好きな季節でした。なので、日本での初めての秋は、とても満足しました。12 月である今は、クリスマスと年末の雰囲気が見えます。クリスマスマーケットや友人とのクリスマスパーティーもあり、気候は寒いですが、人々の心は暖かいと感じています。新年前までに今年目標の達成に向かって最後の張り切りで頑張っています。

メキシコへ帰るまであと 3 ヶ月です。大学での研究も進み、得た情報や内容をまとめ始めています。私の研究テーマは「日本に住む難民の子どもたち」についてです。具体的に、母国で紛争や人権被害にあって日本へ難民として受け入れられて移住する子どもたちはどのような毎日を過ごしているのか、また、この子供たちは全く知らない国へ逃げてきて言葉も文化も知らないことが大きな壁であり、どんな不安があるのか、日本人の子どもたちとの教育差や子供の権利に関しても調べています。難民問題は現在世界での大きな課題であり、とてもセンシティブで情報の取得は少し難しく、日本語のものも制限されている中、田北先生のおかげで色々なアイデアや進め方のアドバイスを毎週もらっています。

今までは、日本での難民の受け入れ制度や現状、もう大人になった難民の子どもたちのインタビューや戦争を見てきた子どもたちの心理的なトラウマの対応について調べてきました。難民の子どもたちに触れ合うのが難しく、異文化の経験がある子どもたちの代表で来年子弟招へい事業で福岡へ来日する子どもたちに、一部研究に貢献してもらいたいと思っています。難民とは異なりますが、私も含み、日本と母国の間で育てられている中で共通点もあるので、その共通点に着目したいと思い、許可、資料作りと企画を考えているところです。

次に、前期まちづくり基礎論という授業で、先生が担当する里子や実子さん、そしてこれから里親家庭で過ごす子どもたちのためのカードキットプロジェクトの制作に関わり、今期もそれに関するカードキットの発売記念イベントも企画中です。日本ではマイノリティである里子・里親さん、あまり知られていない里親家庭の制度も難民の家族・子どもたちと同じように子供の権利に関する共通点がいくつかあり、研究にとっても役に立っています。

最後にその結果、難民の子どもたちと周りに住んでいる日本の子供たちに戦争・難民とは何か、異文化が存在する共生社会に向けて教えるためのツールを作りたいと思います。これは来年の3月まで完了させるのは難しいと思いますが、留学が終えてもメキシコや他の国でプロジェクトとして進めたいです。このプロジェクトが子供たちの将来への導きと色々抱えている不安を少しでも減らせるために役に立ててもらえるのが目的です。そして国際交流関係に関心がある自身の職業にも繋がるといいです。

ペルー福岡県人会

古賀 金子 メグミ アレハンドラ

九州産業大学 芸術学部

県費プログラムを始めて約9ヶ月、あっという間に時間が過ぎてしまいましたが、日本に留学して本当に良かったと思っています。1年間、楽しみながら多くの事を学べたと思います。九州産業大学で写真と日本語を勉強しているのは、良い選択をしたと思います。

私はグラフィックデザイナーなので、この機会に写真を勉強したいと思いました。そして、日本で写真を勉強する事には多くの利点があります。優れた機器を使用し、様々な視点を学ぶ事が出来ます。それに、日本は美しく多様な国であるため、写真を撮る素晴らしい景色を簡単に見つけることが出来ます。もう1つの長所は、四季がはっきりしている事です。環境は常に変化し、同じ場所でも1年を通して変化するため、何度も写真を撮る事が出来ます。最初の学期でのお気に入りの部分は、白黒フィルムの現像プロセスを習う事でした。これまでやった事がなかったので、特に暗室での作業にとっても興奮しました。そして、毎週のスタジオ写真撮影も行いました。挑戦的でしたが、スタジオセッションに適切にアプローチする方法を習い、中判カメラを使用出来るようになりました。これは素晴らしい経験でした。その上に、年間を通して行われたゼミで、様々なフィルターや編集手法を試して見ましたが、これは興味深いものでした。夏休みの宿題でPLフィルターを使って写真を撮りました。このフィルターは、コントラストと色を強調しながら、まぶしさと反射を減らします。水域や空を撮影するのに最適です。今学期は専門語をもっと知りたかったので、写真史の授業を受けました。日本の写真家や日本の写真史への関わりについても取り上げられていて、とても興味深いものでした。もう1つの魅力的な授業は広告でした。広告のあらゆる種類のメディア、専門語、広告を作成するプロセスについて習いました。以前から日本のCMに興味があったので、この授業はとても楽しかったです。ゼミでは、また様々なテクニックを試し続けました。最新の技法であるUVライトを使ったプリントを楽しみました。青邪神法も手付和紙一兵衛もそれぞれ魅力的で、とても気に入りました。全体として、将来に役立つ多くの知識を得る事が出来たと思います。それに、荒巻先生が私を担当して下さいました事にも感謝しています。

日本に着いた時はコミュニケーションが難しかったです。日本語のクラスのおかげで少し上手になりました。マンツーマンの授業で、一人で勉強し、疑問点があれば先生に相談します。最初は文法に重点を置いていましたが、今からは漢字勉強を進めなければなりません。先生は私が上達したと言っており、今では全体的な理解力は良好ですが、漢字は改善しなければなりません。

日本に留学出来た事に感謝しています。懐かしく振り返る事が出来る素晴らしい経験でした。大学での授業は私に多くの事を教えてくれ、新しい視点を与えてくれました。今年は非常に生産的で、仕事と生活の両方に役立つと思います。県費プログラムの残りの数ヶ月でさらに多く学ぶ事を楽しみにしています。

ハワイ福岡県人会

仲村 せり ちよ

福岡大学 理学部

自分の研究に対して、二つの分に部分けます。最初の研究は、県費留学生として福岡大学を選ぶことになりました。福岡大学の天体物理学部の先生が研究しているプロジェクトが気になりました。そのため、先生からいろいろなことを習いたいと思いました。一つ目の研究は、先生の研究と繋がっているプロジェクトです。二つ目の研究は大学に入学してから、興味があったことです。

初めに、先生とのプロジェクトを説明します。日本にある重力波望遠鏡のカグラ「KAGRA」望遠鏡は現在、発展中なので、もし、研究者はデータを読みたいなら、セキュリティのため、難しく、時間が掛かる手順があります。カグラの望遠鏡のサーバで働いている研究者は、研究者達はデータを読むことができ、データ解析を使うことができる状況に届けるため一生懸命働いています。それで、先生とのプロジェクトは研究者がデータを取れるようになりたいです。そのため、データを取り、データ解析を作り、研究者達はもっと簡単にデータを読むように、ウェブアプリを作るプロジェクトを進めました。現在の状態にはウェブアプリの表面は終わって、データ解析やデータをダウンロード方法は終わりましたが、データを取る分はまだ終わっていません。

このウェブアプリをパイソン「Python」の言語とジャンゴ「Django」のライブラリーで作りました。パイソンの言語で書いたことはありますが、ジャンゴのライブラリーは使った事はありません。ジャンゴはセキュリティの高いウェブアプリを作るため、ジャンゴでプログラムを書きました。データ解析のプログラムはパイソンで書いているので、ジャンゴのパイソンと両立はできるライブラリーを使うことにしました。あった問題は、自分はジャンゴの使い方は前から聞いた事はありません。このプロジェクトを始めてから新しいライブラリーを習い始めました。

二つ目の研究は自分が気になった天体です。りょうけん座 AM 型星の天体に興味があります。この天体はヘリウム激変星および、白色矮星の連星です。連星はヘリウム白色矮星またはヘリウム星と通常の激変星で、この通常の白色矮星にヘリウムが降着します。この天体は続けてから、りょうけん座 AM 型星は、Ia 型超新星の天体になることはあります。

りょうけん座 AM 型星は重力波を放射します。重力波を放射する天体のモデルは難しいですが、重力波の少ないりょうけん座 AM 型星の場合ありましたら、モデルすることはできるかを研究プロジェクトになりました。私はフォトラン言語を使いソフトウェアのメサ「MESA」で作ってみることを始めました。自分

は大学でりょうけん座 AM 型星の天体のことをあまり習っていませんので、この研究は本などを読むことの方が模型を作ることより多いです。

りょうけん座 AM 型星の天体の学んでいる間、作家達の教え方を少し習いました。日本語でゆっくり読んで、日本語の説明の美しさに気づきました。この説明の仕方は、天体物理学のアメリカの作家には少ないので、気に入りました。日本語の美しい説明の仕方のように、英語で、天体を説明できるのか。この新たな勉強を始めて、今まで、少しずつ作品は書いています。

研究を始めたとき、自分の二つの研究はあまり関係なく、難しいと思いました。難しさは合っていると思いますが、自分は研究している二つの研究は思った以上に、いろいろな繋がりががあります。たとえば、重力波は両方の研究においての問題です。これからも、研究を続けて、頑張ります。